

石神中学校だより21号

発行日：令和4年3月15日

2021重点目標〈課題を持って自ら学び、夢の実現のためにやり抜く生徒〉 文責：校長 佐藤恭司

第75回卒業証書授与式



3月11日、本校体育館を会場に第75回卒業証書授与式が挙行されました。卒業生らは、昨年度から続く新型コロナウイルスによる感染拡大防止に伴い、様々な行事が中止や延期、さらに規制のある中での学校生活となりました。そのような中でも、希望を失うことなく、前向きに中学校生活を送ることが出来たと思います。在校生、教職員らの思いが詰まった式になりました。PTA会長の遠藤友彦様から祝辞を頂き、卒業生に向けての送辞は2年生の清信晴音（はると）さん、答辞は渡部朔矢（さくや）さんが行いました。式歌は、「輝くために」（3年生）、「旅立ちの日に」（全校生）を歌いました。式に臨む卒業生や在校生らの凜とした姿は、厳粛な式をさらに高め、素晴らしい卒業式となりました。3年間の思い出を胸に、新たな旅立ちとなった一日でした。

石神中学校同窓会に入会しました



3月10日、石神中学校同窓会入会式が行われました。同窓会長 志賀吉延様よりご挨拶をいただき、佐藤陽人さんが記念品授与、そして塚部沙菜さんが生徒代表の挨拶を述べました。今年度の卒業生56名が新たに入会し、本校同窓会員数は、11,714名となります。本校卒業生は、先輩後輩との絆が強く、ともに助け合い、協力しながら取り組める強さがあります。全国各地で、多くの卒業生が活躍しています。石神中学校卒業生の誇りと自信をもって挑んでください。

絵画作品贈呈式が行われました

3月10日、本校卒業生である画家の中島敏明さんをお招きし、多目的教室において絵画作品の贈呈式が行われました。式には、生徒代表として5名の生徒会役員、同窓会長の志賀吉延さんらが出席されました。作品贈呈式の中で、中島敏明さんは、生徒らに「作品の見方、感じ方、受け止め方は、人それぞれ違います。その違いが答えです」。さらに感性を持つ大切さについても話されました。中島敏明さんは、南相馬市原町区高倉出身で、1963年（昭和38年）に本校を卒業されました。中島さんは現在、千葉県に住居を構え、画家として多くの作品を制作し、二科展を始め、国内外の展覧会で様々な賞を受賞されています。個展も数多く開催され、内閣総理大臣賞や千葉県教育功労者なども受賞され、現在は、二科会理事や千葉県美術会常任理事、日本美術家連盟会員なども務めておられます。数多くの作品の中から、3作品が、本校2階多目的教室に展示されます。寄贈作品名 「elegy'98-3」（油彩 100F）、「ムネキュン」（油彩 50P）、「倫」（油彩 50F 3月末）



作品についてお話をしている中島敏明さん



中島敏明さん、志賀同窓会長さん、生徒会役員

ねがい 3月11日を忘れない

まもなく、あの大地震から11年を迎えます。11年前の3月11日金曜日、午後2時46分、皆さんは、どこで何をしていましたか。私は午前中、自分の子どもの中学校卒業式に出席をしていました。そして午後仕事に戻り、その時間、今までにない大きな揺れを経験することになるのです。当時の状況を思い起こすと、大地震と原子力発電所の事故により、多くの人命や家屋を失い、さらには地域の文化やコミュニティまでも失ったことは、皆さんも知ってのとおりです。たくさんの人々が被災し、今日まで復興を信じて懸命に頑張ってきてきました。

今、日本国内に限らず、世界中いたるところで大地震や水害、大雪、噴火、山林火災などの自然災害が起こっています。昨年の2月には、震度6強の強い地震が起こりました。11年前の東日本大震災の余震が今でも続いているということです。昨今、日本各地で起きている地震や台風、水害などは、ある意味、忘れてはならない防災意識の高揚を再認識させられたのかも知れません。災害は、自宅にいる時だけ起こるわけではありません。登下校の途中や買い物先、部活動の試合中、修学旅行先などで、もし、地震や台風、雷雨、竜巻、大雨などの自然災害、または火災や人災事故が発生したとき、自分はどのような行動が取れるか、避難はできるか。そして、中学生として、高校生として出来る的確な行動や支援活動は何か、そのようなことを時々考えて欲しいと思います。

私たちは、11年前の出来事を決して忘れてはいけません。尊い命を犠牲になられた方々の分まで、懸命に生きなければなりません。近いうちに起きるであろう南海トラフ大地震、東京直下型大地震などについて報道されていますが、東日本や北海道でも、地震活動は依然として続いています。

災害は、いつ、どこにも起こりえるのです。日頃の自分の立ち振る舞いを振り返り、もう一度初心に戻って、安心安全な生活について考え、命を守るための行動が取れるように気を引きしめていきましょう。



(3/8 慰霊式での校長講話より 抜粋)